感じるまち

伊勢崎を五感で研ぎ澄ます

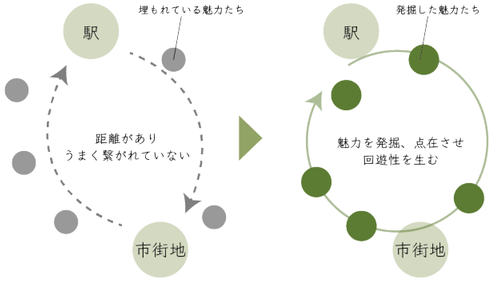
私たちは埋もれてしまっている地域資源を「五感」という人間が持ち合わせる身近な道具を用いて紐解いていく。「五感」を用いて魅力を引き出されたこのまちは、多くの人を集め街として偉大な成長を遂げる。そして、成長を遂げた伊勢崎はまた新たな五感体験を産むだろう。このように、「五感」を取り込むことでこの街の成長と大きな相乗効果を生み、伊勢崎が街として研ぎ澄まされていく。その「五感」を最大限発揮できるよう主に五つの提案を行う、展望台、ホテル、市場、ビオトープ、音楽堂と、、、それらは「五感」と強く結び付き街の成長を約束する。

01 現状 伊勢崎の可能性

かつて伊勢崎は、酒井忠温が伊勢崎藩藩主であった時代に学習堂を設立し教育に力をいれ有名になっていた。

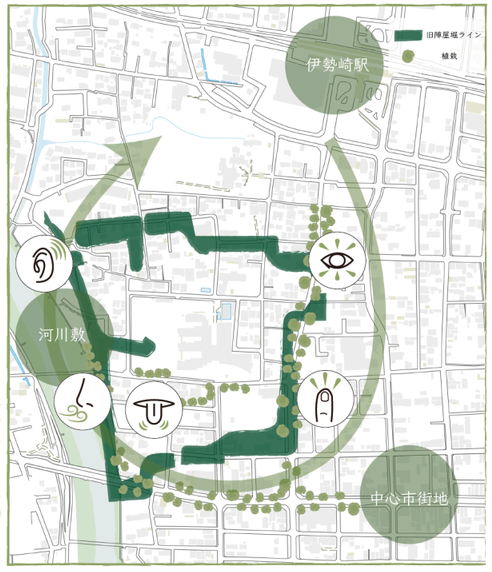
埋もれる魅力と回遊性の不足

現在の伊勢崎には自然・歴史・産業・農産物という地域資源があるが、訪れる人々にその魅力をうまく伝える手段が足りない。また駅と中心市街地が離れており、二つをつなぐ魅力ある歩道空間や建築が不足している。これらを解決し、伊勢崎を知り訪れたくなるようなまちを目指す。



02 提案概要 五感で巡る伊勢崎

「地域の魅力を五感で体験・学習できる場」をかつて伊勢崎藩陣屋の堀があったライン上に整備し、賑わいと回遊性を生む。



五感体験が記憶を刻む

情報過多な現代において実際に見たり体験しない、ただ提供されるだけの情報は記憶にも心にも残らず淘汰されていく。記憶や体に残るためには、自ら五感を使い、選択し、実際に体験することが必要である。その刺激や過程が記憶や体に染み込み、伊勢崎を「感じる」ことができる。

魅力と五感で織りなす拠点

魅力と五感で織りなすことで伊勢崎を「感じられる」拠点を設計する。一つ一つは小さく細い魅力であっても銘仙のようにそれらを織りなすことで伊勢崎の魅力を引き出す。織りなした魅力は一枚布のような「伊勢崎の魅力」を作り出すことができる。

駅・川・市街地を結ぶ

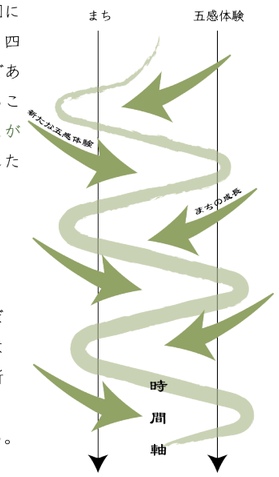
駅、川、市街地を結ぶように木々が生い茂る緑道へと整備する。それぞれの距離が離れていることが課題に挙げられる場所であるが、緑道の下を歩くことで日差しから守られ、歩きやすいまちへと変化を遂げることが期待できる。

03 展望 五感での体験は更新され続ける

魅力と五感が織りなす拠点は、体験者が自ら選択して体験できる。
それはまた来たいと言う思いを想起させ、まちにも影響をもたらす。

飽きることない伊勢崎

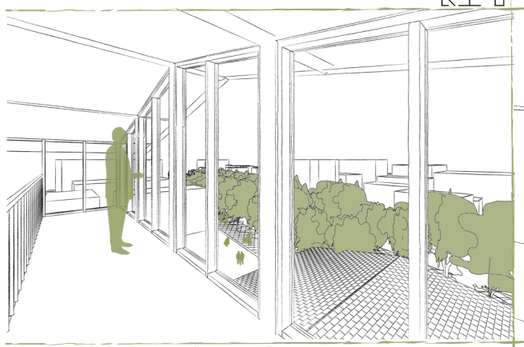
五感を使った体験は、様々な外的要因や内的要因によって受ける印象が変わっていく。気候や天気、四季などに加え、受け手の気分や誰と体験するかである。そのため何度訪れても全く同じ感情を覚えることはないため常に新鮮な伊勢崎を「感じる」ことができる。また与えられる体験ではなく自ら選択した体験であるため、より一層飽きることない。



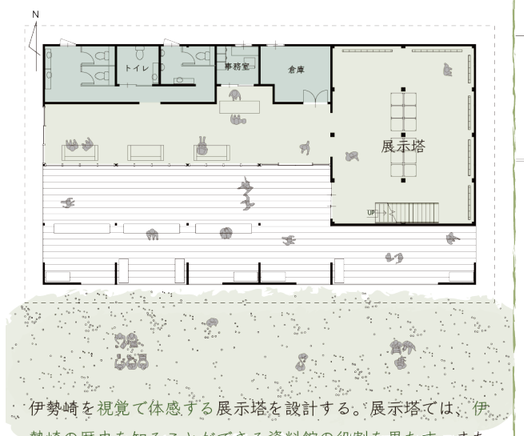
まちと共に更新される五感体験

五感体験は人々だけではなくまちにも影響を及ぼす。五感体験で集まった人が生み出した賑わいはまちへと還元されていく。賑わい出したまちは新たな五感体験を発掘し人々へとまた還元される。これらが繰り返されることで相乗効果が生まれる。

きょろきょろ 展望塔

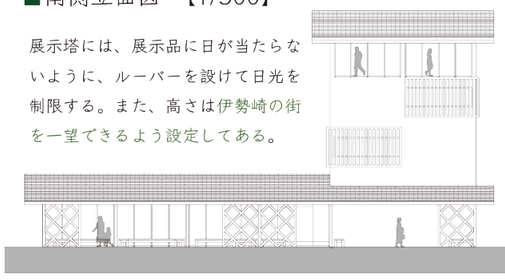


■１階平面図　【1/300】



伊勢崎を視覚で体感する展示塔を設計する。展示塔では、伊勢崎の歴史を知ることができる資料館の役割を果たす。また地上部分では休憩スペースとオープンスペースを設ける。

■南側立面図　【1/300】

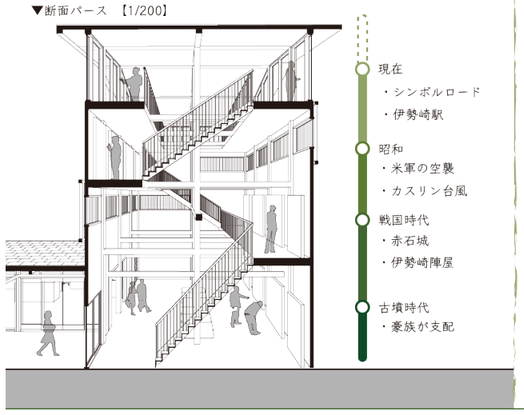


展示塔には、展示品に日が当たらないように、ルーバーを設けて日光を制限する。また、高さは伊勢崎の街を一望できるよう設定してある。

■視覚で伊勢崎の軌跡を辿る

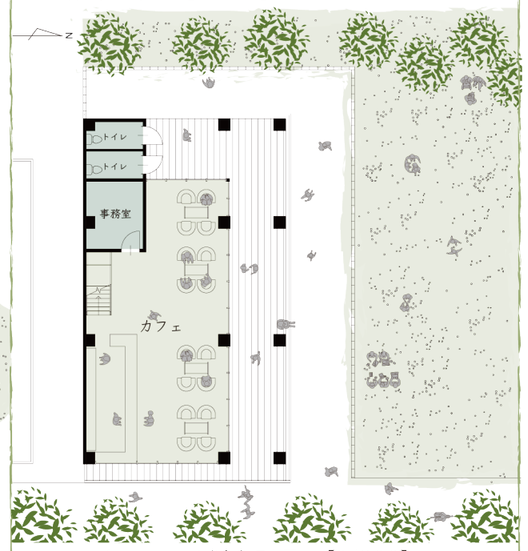
展示塔は、伊勢崎の歴史に関する展示を行い上層階に向かうにつれて伊勢崎の軌跡を辿るような展示方法をとる。そして最上階では「今」の伊勢崎を眺めることができる。

▼断面パース　【1/200】



ささわさわ ホテル

■１階平面図　【1/300】

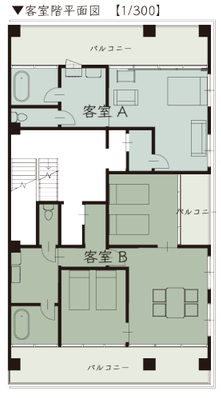


■シンボルロード側立面図　【1/300】

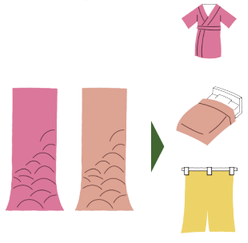
ルーバーは外からの視線が通りずらいため客室を開放的にできるほか、気温の高い伊勢崎に対しての対策ともなる。

■肌で体感する伊勢崎の産業

▼客室階平面図　【1/300】

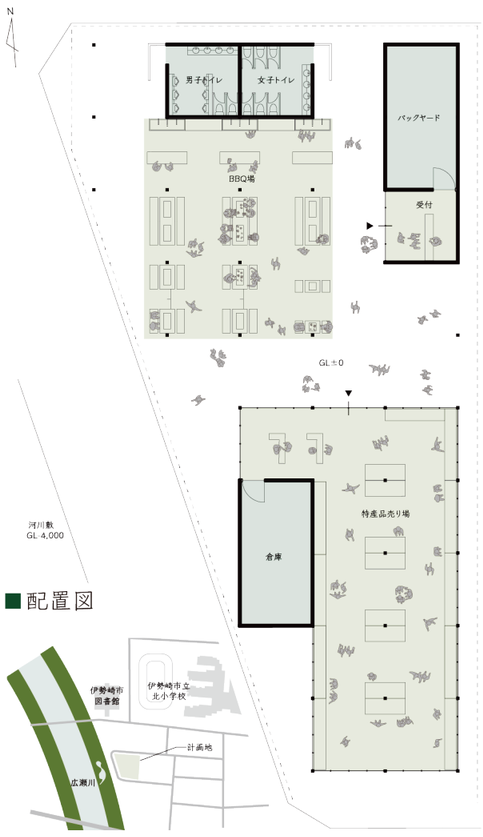


伊勢崎の地域資源を触覚で感じることができる場所である。織物を用いた家具や寝間着などを用意して伊勢崎銘仙を知ることのできる施設として設計する。



ぱくぱく 朝市也阪会場

■１階平面図　【1/300】



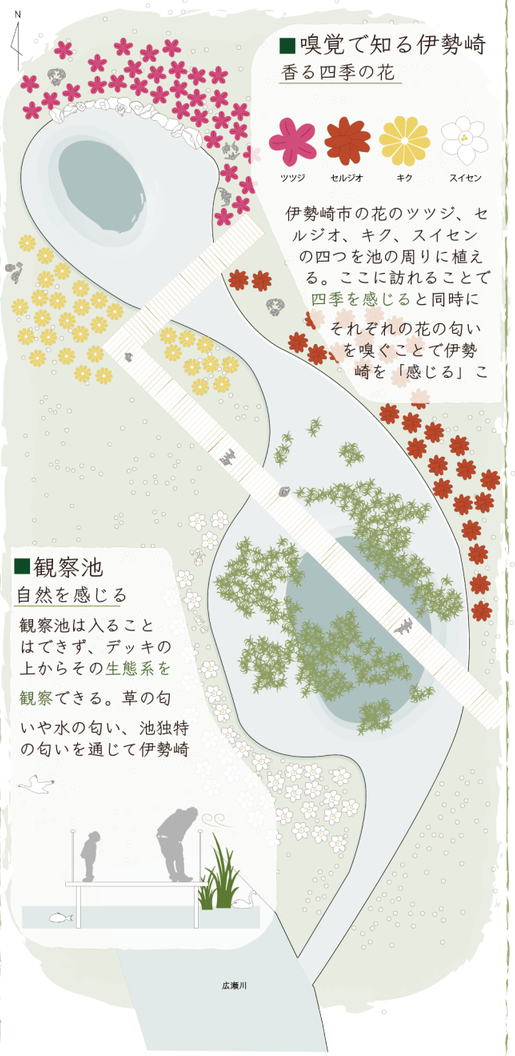
■配置図

■味覚で堪能する伊勢崎

かつて伊勢崎藩の学習堂があった場所（現在は駐車場）に食育施設を設計する。食育施設には大きく分けて二つの機能がある。一つ目は農産品売り場だ。ここには伊勢崎で獲れた農産物を中心に商品が並ぶ。伊勢崎の農産物を見て、触って知ることができる。二つ目は BBQ 場だ。農産売り場で自分で見て触って選んだ食べ物を実際に調理して味わうことができる。味覚を通じて、伊勢崎の農産物を学ぶことができる。

くんくん ビオトープ

■ 平面図　【1/300】

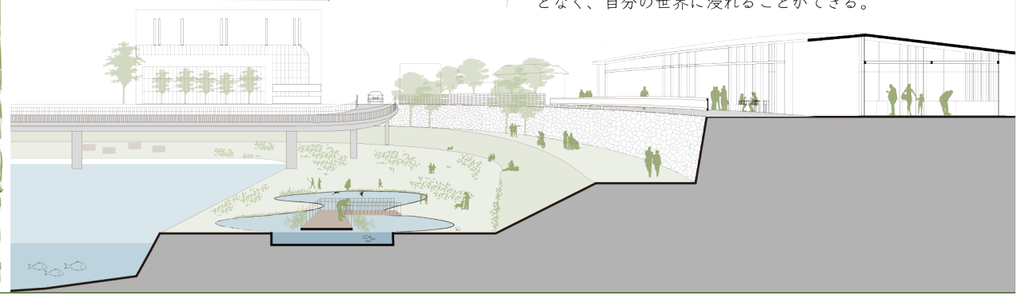


■嗅覚で知る伊勢崎
香る四季の花

伊勢崎市の花のツツジ、セルジオ、キク、スイセンの四つを池の周りに植える。ここに訪れることで四季を感じると同時にそれぞれの花の匂いを嗅ぐことで伊勢崎を「感じる」こ

■観察池
自然を感じる

観察池は入ることはできず、デッキの上からその生態系を観察できる。草の匂いや水の匂い、池独特の匂いを通じて伊勢崎



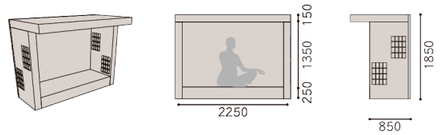
わざわざわ 小さな音楽堂

音で感じる伊勢崎

現在、広瀬川の河川敷沿いの土手に伊勢崎に溢れる自然の音を聞くためのモジュールを設計する。モジュールにより、川の音、風の音などをきいて、伊勢崎に対しての認識を深める。

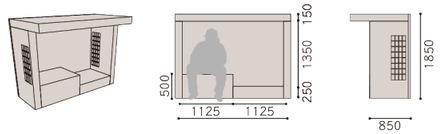
■モジュール図

Type-A



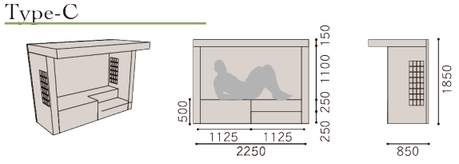
ゆったりと座るだけでなく、座禅などを組み、音と向き合うことのできるモジュール。精神を統一することで、自然の音とより集中して向き合うことができる。

Type-B



高さの違う座面が二つあるモジュール。自由な態勢で自然と向き合うことができるため、自然の音の魅力やたのしさを普段よりも発見することができる。

Type-C



座るだけでなく、横になることもできるモジュール。普段と違う音の伝わり方を体験することができ、あたらしい自然の音に出会うことができる。

Type-D

ひとりで音を聞く専用のモジュール。周囲の人を気にすることなく、自分の世界に浸れることができる。